

新たな養蚕技術の開発

養蚕を取り巻く環境の変化などに的確に対応するため、既存の養蚕農家だけでなく、新規の農家や事業者にとっても有益となり得る研究課題を選定し、実施する。

今後重要となる研究課題の第1は、農薬被害、とりわけ畑から桑園に転作した時に発生する恐れがある、農薬汚染土壌に起因する“不吐糸蚕”問題への対応である。この問題が疑われる事例は、新規に養蚕を始めた千葉県の農家でも実際に発生しており、またインドでも同様の被害事例が報告されている。この問題を未然に防ぐための対策手段を確立し、国内養蚕業へ貢献する。

研究課題の第2は、防疫、とりわけ当研究所で開発された「養蚕用除菌洗浄剤」の適用範囲を広げるための基礎研究の推進である。本洗浄剤は、蚕に感染する各種病原体に効果を示すように開発されているが、人工飼料育での発生が懸念されている腸球菌等への殺菌効果は未調査である。そこで本課題では、国際的な殺菌効果の検定手法である欧州標準（EN）法を採用し、本除菌洗浄剤の腸球菌等への適用性を検討する。

研究課題の第3は、安価な養蚕資材の開発である。国内養蚕業の減少により、養蚕専用資材の生産が行われなくなっている。このため、安価な汎用品で代替する技術の開発が不可欠となっている。また、新規に開発された遺伝子組換えカイコの飼育法やその用途の開発についても、所内外との共同研究により、カイコの新たな利用範囲を開拓する。

